



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 世界株式探検隊：株価指数で世界の株式市場を探訪

講演：小原沢 則之氏、レポーター：川元 由喜子

日頃、目にする事の多い株価指数も奥深いものがあります。今回はその分野で長く研究・実務に携わってこられた小原沢さんに世界株式の指数について教えていただきました。

小原沢 則之（おはらざわ のりゆき）

ラッセル・インベストメント株式会社

ラッセル・インデックス部門 インデックス・ストラテジー・ディレクター

…ラッセルが提供する各種指数に関連するリサーチやビジネス開発を担当

1977 年 東京工業大学工学部卒業。財団法人日本不動産研究所、日興証券株式会社入社、同社で投資工学研究所副所長を勤めたのち、1998 年、株式会社グローバル・ラップ・コンサルティング・グループ代表取締役社長。1999 年、ラッセル・インベストメント株式会社（旧フランク・ラッセル・ジャパン株式会社）入社、現在に至る。

ラッセル・インベストメントにおいては、情報テクノロジー部門の統括、金融機関などとの提携、業務の企画推進、年金資産運用コンサルティングなどを担当。コンサルティング部長を経て、2008 年から現職。

主な著作に「新版現代証券事典」（日本経済新聞社）共著、「株価指数先物取引の基礎」（近代セールス社）共著など。証券アナリストジャーナルなどに複数の論文あり。証券アナリスト協会検定会員、不動産鑑定士

「世界株式探検隊」というのは、ラッセル・インベストメント社で出している月次レポートのタイトルです。ラッセル社は年金のコンサルティングから始まった会社で、運用会社の良し悪しを評価するために市場の指標が必要だったことから、それらを自ら開発することになったのです。よく知られているのは、ラッセル 1000、および 2000、3000 といったもので、中でもラッセル 2000 は、ニュース報道などでも、ダウ、SP500 と並んで参照されています。

株価指数はまず、ダウ平均を始めとする平均株価から始まり、少し後になって S&P500 や TOPIX のような、時価総額加重指数という概念が出て来ます。その後、一つの国だけでなく複数国の市場を含めた世界株価指数も発表されるようになります。さらに議論が進み、今は浮動株調整株価



長期投資仲間通信「インベストラيف」

指数というものが、一般に使われています。株式の持ち合いなどで市場に出て来る可能性のない株式を除き、市場で流通している時価総額を使おうというものです。さらには、バリュー指数、グロース指数というものも、市場には数多く出ていますし、ラッセル社では、ディフェンシブ、ダイナミックという指数も出しています。こんなふうに株式指数も進化しています。

世界の株価指数には、まず国別の指数、それからアジア・太平洋、中南米、欧州というように分けた地域別指数があります。それに、それぞれの大型、中型、小型株。成長・割安、さらにセクター別・業種別などがあります。

市場成熟度別指数というのは、先進国市場、新興国市場、新興国未満の「フロンティア」市場と分類したものです。こうした分類には大きく2つの目安があり、一つは経済の成熟度、もう一つは株式市場の制度や規制などの成熟度、ということになります。中国や韓国は、経済規模も大きくて経済という意味では先進国に入ってもいいのかもしれませんが、投資の観点からすると、投資したお金が簡単に戻ってくることが出来ないといった市場規制の面がありますので、まだ新興国に分類されているという状況です。また、ギリシャは今は新興国ですが、去年の途中までは先進国に分類されていましたし、エジプトは6月末に、新興国からフロンティアに格下げされる予定です。それぞれの国の事情があって、投資の安全性が損なわれるとなると、格下げということが起こるのです。

世界指数に投資することの利点は、複数の国や地域に網羅的に投資でき、分散化されたポートフォリオで、平均的なパフォーマンスが得られることです。一方、外貨に対する為替のリスクを負うことになりますが、為替ヘッジを前提とした商品を選ぶこともできます。

講演ではこの後、クイズを通して楽しく世界の株式を「探検」しました。トップ100銘柄で米国の次に多い国は？ 成長株の比率が高い国は？ 去年のパフォーマンス1位の国は？ 過去10年間のパフォーマンスが高かった国は？・・・等々。そして最後に、日本、中国、ギリシャ、ロシアに過去投資していたらどうなったか、投資期間別にパフォーマンス比較をしていただきました。